校長室だより

令和５年度
９月１日
ＮＯ．２０

復活！４年ぶりの盆踊りに集う地域の人たち

暗闇を提灯の明かりが優しく照らし、４年ぶりの提灯の光が暑い夜に揺れます。浴衣や甚平に身を包んだ子供たちも、久しぶりの盆踊りを待ち焦がれたかのように、足取りも軽く屋台テントに吸い込まれて行きました。体育館内の盆踊り会場では、今までの思いを発散させるかのように、たくさんの人たちが踊り楽しみました。学区の方だけでなく、親せきや近くの学区の人、老若男女が一同に集まることで、活気が生まれ、いつも以上に秦梨学区が盛り上がったことをうれしく感じました。

今回、令和元年以来となる８月１３日の盆踊りに向けて、総代さん、社教委員会、PTA 委員、女性部、消防団、交通指導員さん、太鼓たたきの方などの皆さんが、早くから準備をしてくださいました。台風の心配もあり、運動場で行う予定だったものを体育館開催に変えたり、熱中症の心配もあるので踊る時間について考えたりするなど、早い時期から計画はしてきたのですが、直前まで久しぶりの盆踊りを一番良いものにしようと対策し続け、盆踊りを支えてくださった皆様には、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍で、これまで様々なことが中止になったり変更を余儀なくされたりしました。私たちの仕事でも、もし３年間何も活動ができなかったとすると、そのブランクは並大抵なものではありません。しかし、この３年間があったおかげで、今までできなかった盆踊りへの皆さんの思いは大きく募り、大変盛り上がったと考えられますし、行う側もぜひ成功させたいという強い思いで行えたのではないかと思います。準備を進める中でも、これまでのやり方を踏襲するのでなく、「今年はこうやっていこう」と、今のこの状況にあった、そして、今できる最大・最適な形で行えるよう考えて行う様子が見られ、それが大切であると思いました。教育でも「不易と流行」と言います。子供の人格の形成を狙うことはいつの時代も変わらぬ不易なことですが、その道筋は、その時の子供の実態に合わせて変わります。盆踊りも、学区みんなで集まって楽しむという気持ちはいつの時代も変わらぬものですが、その方法は、今の状況に合わせて、今のベストを考え、（たとえブランクがなくとも）より良いものを作っていくことが大切であると改めて考えさせられました。

今年も全国各地で盆踊りが行われました。盆踊りは昔からあるもので、もともと娯楽の少ない時代にみんなで楽しむものだったとされます。それぞれの村や町、地域で行われる盆踊りは、地域の仲間とつながり、自分たちの地域を思いやる機会であったことでしょう。こうした機会を通して、子供たちには、地域を思い地域に生きようとする気持ちを持ち続けてほしいと願います。